

第9回マダガスカル口唇口蓋裂医療協力 参加した学生の感想

マダガスカル口唇口蓋裂医療協力団が12月10日、16日間の活動を終え帰国した。本事業は、アフリカ大陸東部の島国、マダガスカル共和国で口唇口蓋裂に苦しむ子どもたちの医療支援として、2011年5月から毎年行われ、今回が9回目となる。今回は医師、歯科医師、看護師をはじめ、大学院生、学部生ら15名を派遣した。

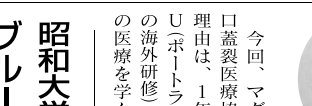


医学部5年
河守 咲季

このたびはマダガスカル口唇口蓋裂医療協力を医学部生として参加させていただきました。外來のお手伝いや手術室の設置から始まり、手術見学、回診の補助などを経験しました。先生方や看護師の方から多くのことを教えていただき、口唇口蓋裂だけでなく他の形成外科領域の疾患や麻酔についても理解を深めることができました。また、関わ

った患者さんとその家族の変化を肌で感じ、医療が患者さんの笑顔で返ってくるという医療の原点をマダガスカルで見ることができました。笑顔で病院を後にする患者さんを見て、嬉しかったのを覚えています。また、フィールドワークを通じ現地の医療の実情も知ることができました。日本の医療を当たり前としてきた私にとって驚きの連続でしたが、限られた資源の中で医療を行う人々の姿から学ぶことも多くありました。本プロジェクトに参加し、たっくさんの人に出会い医療

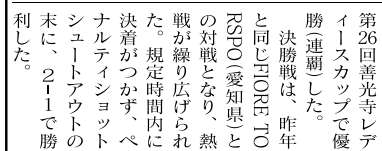
人として視野の広がる経験させていただきました。このような機会を与えてくださった全ての方に深く感謝申し上げます。この経験を糧に医療人として精進して参ります。



歯学部5年
池端 陽介

マダガスカルは、私が今まで行ったさまざまな国をも凌駕する国でした。空港に到着すると同時に、アジア人や白人も居ない、今まで経験したことのない雰囲気圧迫されました。到着した時間が深夜だったこともあり、少し不安な気持ちになりました。街ではくたびれた服を着て裸足で歩く子供たちと一緒に歩く無数の牛、私たちを見るとたっくさん集まってくる物乞い

の医療を通して発展途上国との関係を築き上げたことには私の人生に大きく影響を与えてくれたと思っています。医療面では、口唇口蓋裂の術野に入り多岐にわたる学習ができました。それ以上には術野で先生の指導の下、縫合や気管挿管の手法などを実感しながらに学べたことは非常に良い経験



薬学部5年
藤田 祐見

私は、本年度のマダガスカル口唇口蓋裂医療協力に参加させていただきました。初めてのアフリカでの生活に驚くこともありましたが、毎日さまざまな手術の見学、術前・術後の回診に同行させて

義な時間を過ごすことができました。今回の研修では、病院内での研修のほかに、フィールドワークとして現地のマロン(産婆)訪問や歯科クリニック、薬局見学なども行いました。薬局見学の際には、現地の薬局の特徴や薬剤師の業務について知ることができました。そのなかで通常は1箱で薬を販売するところ、お金のない患者さんにはジェネリック医

途上国と比べどの程度違いがあるのかということや、母子保健制度にも興味があるため、マダガスカルでの現状を知りたいと考えたからです。現地を訪れると、都市部にはビルが立ち並び、予想以上に開発が進んでいて驚きました。一方で、土で作られ電気も通っていない住宅に住んでいる貧困者も多

く、小さな子供が物乞いをしている様子も見られ、貧富の差があることを実感しました。この貧富の差に伴い、受けられる医療の質も異なるため病院で出産することもできづらい妊婦さんも多々いらっしゃいました。このような現状を少しでも改善できるような、日本の母子保健制度を広めていきたいと強く感じました。

また、日本では体験することのできないオセオセ看護師のお手伝いや、形成外科や麻酔科のスペシャリストである先生方から講義を受けることができて、とても貴重な学びを得ることができました。2週間の学びを将来医療者として生かせるよう、これからも日々精進して参りたいと思います。

薬品を用いて1錠単位で販売するというのを伺い、貧富の差があることを感じました。それと同時に、保険制度が整っていないために十分な治療を受けることができない人がいるということが実感しました。

今回の研修は、他国の生活や医療の現状を感じるとともに、医療人としての視野を広げる貴重な経験となりました。今後、世界医療水準を上げるために



医学部3年
看護学科
内田 千晴

今回、マダガスカル口唇口蓋裂医療協力に参加した理由は、1年生の時にPSU(ポルトランド州立大学)の海外研修に参加し先進国の医療を学んだため、発展

途上国と比べどの程度違いがあるのかということや、母子保健制度にも興味があるため、マダガスカルでの現状を知りたいと考えたからです。現地を訪れると、都市部にはビルが立ち並び、予想以上に開発が進んでいて驚きました。一方で、土で作られ電気も通っていない住宅に住んでいる貧困者も多

く、小さな子供が物乞いをしている様子も見られ、貧富の差があることを実感しました。この貧富の差に伴い、受けられる医療の質も異なるため病院で出産することもできづらい妊婦さんも多々いらっしゃいました。このような現状を少しでも改善できるような、日本の母子保健制度を広めていきたいと強く感じました。

また、日本では体験することのできないオセオセ看護師のお手伝いや、形成外科や麻酔科のスペシャリストである先生方から講義を受けることができて、とても貴重な学びを得ることができました。2週間の学びを将来医療者として生かせるよう、これからも日々精進して参りたいと思います。



昭和大学女子アイスホッケークラブ ブルーウィンズが2連覇達成 ―第26回善光寺レディースカップ―

本学の女子アイスホッケークラブであるブルーウィンズが1月12日、第26回善光寺レディースカップで優勝連覇し、昨年と同じICEOCTO(愛知県)との対戦となり、熱戦が繰り広げられた。規定時間内に決着がつかず、ペナルティショットシュートアウトの末に、2―1で勝



年度	令和2年度	平成31年度
募集人員	70	70
志願者数	男	22
	女	276
	計	298
合格者数	男	4
	女	96
	計	100

令和2年度 医学部附属看護専門学校 一般選抜入学試験(1期)結果

医学部附属看護専門学校 令和2年度一般選抜入学試験1期が1月13日、看護専門学校で実施された。募集人員70名に対して、298名が受験し、1月15日に合格者が発表された。

医学堂書店
品川区 旗の台
電話(03) 3783-9774

昭和大医学部同窓会では
所得補償保険、傷害疾病保険、
医師賠償責任保険等、
各種補償制度を取り扱っております。

取扱代理店：
昭友商事株式会社
TEL：03-3784-8280
http://www.shoyu-trading.com

as human, for human
PARAMOUNT BED

最先端の技術で医療の明日に貢献します。

パラマウントベッド http://www.paramount.co.jp フリーダイヤル 0120-03-3648